

# 恵みと真理のニュース



2019年09月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



[証]

**礼拝をすることに説教に感動、感化されるようにしてくださり、切ない祈りに答えてくださった神様を賛美します。**

私は小学校に通うとき、友達の伝道を通して夏の聖書学校に参席してイエス様がどなたなのかなぜ私がイエス様を救い主として信じるべきなのか知ようになりました。教会学校で聖書を習いながら信仰が育ちました。家で一時間かかる教会に行き礼拝を捧げて聖書の御言葉と賛美を習い一人で家に帰って来る道が少し怖くありませんでした。教会で習った賛美を歌って振り付けもするとイエスが手を掴んでいるような感じがしました。

結婚をしてシフン市に引っ越ししてから恵みと真理教会の聖徒になりました。引っ越しをするとき、神様に祈りました。“神様！神様が喜ばれる教会に通いたいです。異端に属している教会が多い中で私を御言葉の恵みが溢れる教会に導いてください。このように祈った時、恵と真理教会の首区域長が来られて熱情を持って伝道しました。

初めは礼拝の時間に居眠りする時がありました。それで、礼拝席に座ったら切に祈りました。“聖霊様！今日も説教をよく理解して恵まれるように助けてください。”そのように祈ったら教会長の牧師の説教が本当に蜂蜜よりも甘く感じました。“わが子よ、蜜を食べてみよ、それは美味だ。滴る蜜は口に甘い。”（箴言24：13）御言葉の意味を知ようになりました。また、平日礼拝の講解説教を聞きながら聖書の

御言葉が難しくないことも知ようになりました。水曜日に職場で社長の許可を得て教会に走って礼拝に参席し、御言葉を聞くとまるでドラマを見るように生き生きと働かれる御言葉の恵みによって喜び溢れます。このように恵みと喜びが溢れた信仰生活をするとうその迫害が酷かったです。言葉を失う病気にもなり、円形脱毛症にも患いました。神様に祈りました。“かみさま、私は礼拝を捧げて主を仕えるのがとても楽しくて幸せですが、人々が私を見てどんな心配で脱毛症になるのかと聞かれます。神様！癒ししてください。”祈りながら治療を確信するようになりました。嘘のように髪の毛が生え始めました。神様の恵みに感謝して子供の頃から教会に通ったことを考えて児童区域長の職分を受けて奉仕し始めました。その迫害に屈しなく家で子供達と礼拝を捧げながら熱心に伝道しました。このように楽しく信仰生活をしたが、家計の事情があまりよくなかったです。そうする中で旦那が仕事の途中、高い所から落ちる事故にあいました。幸いに数か月治療を受けると治ると言われましたが、これからどう生活するのか心配になりました。神様の助けが切実でした。そんな状況で義妹の旦那が 永宗島の地下鉄の駅の前にある5階の建物を買って宿泊施設としてリモデリングを行うとし、私達に来て一緒に運営しようとしてくれました。しかし、私はそこに行くこと神様が喜ばれないと思ってまた、忙しくなり教会に行けないよう積極的に反対しました。すると旦那はそこにも私が好きな恵みと真理教会があると毎日のように説得させました。

永宗島に引っ越した後、主日になると区域長のカバンも持っていないまま教会に走って礼拝を捧げました。御言葉に恵まれて新しい力を得て家に帰って来ると待っていたように旦那が怒りながら迫害をしました。そう

すると私は笑顔で“背中を見せながらわざと“弱くたたいてください。痛まないように”としました。そんな私の姿がおかしかったですが、気分が良かったです。急に引っ越しをして児童区域礼拝を共に捧げた子供たちの親に先に話さなかったことが申し訳ないです。連絡をしたくても涙が出そうだったので1年が過ぎてから連絡をしました。シフン聖殿の区域長達と聖徒がとても懐かしかったです。

熱心に働いて神様が助けてくださりあちこちから借りた借金を返しました。ついに借金を全部返してシフン市に帰って来ました。神様が私の祈りに答え助けてくださったので可能な事でした。心の中に深く思っていた学業の夢も成し遂げられました。入学金がなくて辞めていた専門大学に入って勉強しました。神様が思いがけない方法で入学金と卒業するまで奨学金を受けて勉強を続けるように助けてくださいました。

教会学校の幼稚部、小学部の総務教師の職分を勧められて迷いながら共におられる神様の愛と恵みを思い従順しました。伝道師、部長の長老、先生たちが祈ってください、今まで楽しく奉仕をしています。今年、娘が弁護士の試験に合格しました。娘に希望を与えてくださり、祈りながら努力するように導いて下さった神様に栄光を捧げます。私が仕えている教会学校と児童区域が大きくリバイバルをするのを願います。一昨日、金曜礼拝を終えて帰って来る道にある勤士が私たちの教会の牧師を自慢しました。そうです。私は本当に大きい福を受けた神様の子供です。イエス様を信じない人々、不信家族と知り合いが私のように神霊な福を受けて享受するように熱心に福音を伝えながら主の事をします。ハレルヤ！



[信仰コラム]

## 全てのことにいつも神様に感謝しなさい

“そしてすべてのことにつき、いつも、わたしたちの主イエス・キリストの御名によって、父なる神に感謝し”（エペソ人への手紙5:20）

人は獣と異なって霊的な存在であるので正常な人であるなら神様を認識することができます。万が一、キリスト人でありながら神様に感謝を捧げることがない生活をしているなら確に問題があります。その心霊が鈍くなったという証拠です。神様に向けた聖徒達の感謝を分析してみると大略に三つに分けることができます。

第一は、信仰による感謝があります。

この信仰は神様に対する信仰すなわち、神様の属性に関連した信仰と神様の言約に関連した信仰です。神様がモーセにイスラエルの民を導く使命を与えられる時に“「イスラエルの人々にこう言いなさい、『わたしは有る』というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と”と言われました。「わたしは有る」と言われた神様の御言葉は神様の自存性、永遠性、絶対性、唯一性を啓示しています。

神様は全知全能でおられて無所不在でございます。正しくて真実で、善であり慈愛でございます。神様が与えてくださった尊い約束が聖書に記録されています。皆さんは、このような神様の属性と約束に対する信仰によって全てのことにいつも感謝しながら生きてください。

そして神様が私と共に居られてくださり手伝ってくださるという信仰によって全てのことにいつも感謝する生活をしてください。このような感謝は神様を崇めて喜ばせます。

第二は、望みによる感謝があります。

広野を行進したイスラエルの民達にあった事件は広野のようなこの世を生きていく聖徒に貴重な教訓を与えます。イスラエルの子孫達の多数が広野で滅ぼされた理由がいくつかありますが、その中で恨みと不評が重大な要因です。彼らが恨んで不評した理由の中で頑固な病弊は容易く挫折して落胆する癖です。万が一イスラエル子孫達が神様が既に知らせてくださった御言葉を心に置いたなら絶望しなかったはずであり、このような苦境が却って慰めになり望みになったでしょう。神様は聖徒達のためにより良いことを備えていなくては苦難を許されません。そして全てのことが働いて万事が益になるようにしてください。聖徒達は全てのことに常に望みを持つことができます。皆さんはキリストの中で持つこのような望みによって全てのことにいつも神様に感謝する生活をしてください。

第三は、愛による感謝があります。

イエス様がパリサイ人シモンの招待を受けて弟子達と共に行って食卓に向いて座られました。そこに町の人々から罪人の扱いを受けるある女性が登場しました。この女性は香油が入れてある石膏のつぼを持ってイエス様の後ろ側にきて足もとに寄り添って泣きながら泣きました。女性の涙がイエス様の足を濡らしました。

女性は膝を屈して頭を下げて自分の髪の毛でぬぐい、その足に接吻して香油を塗りました。

パリサイ人シモンはイエス様が予言者であるかも知らないという考えを持っていたが、罪の多い女性が行うことを置いてしまうイエス様を見ながら予言者ではないという結論を出しました。このようなパリサイ人の心をイエス様が読まれて債権者と五百デナリと五百デナリを借りた者に関する話で教訓してください、その女性を振り向いて言われ巻いた。“この女を見ないか…。あなたはわたしの頭に油を塗ってくれなかったが、彼女はわたしの足に香油を塗ってくれた。それであなたに言うが、この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない”。この御言葉は各人が神様の前で自分がいかに大きい罪人であるかを知る程度の大きさと神様を愛する程度の大きさが比例するという意味です。

私達が神様を愛することは神様の愛を被った結果です。神様の愛を悟る程神様を愛します。そして神様に向いた愛は感謝で表現するようになります。皆さんは日増しに神様の愛に対する悟りがより豊かになるよう求めてください。そうして神様に向いた愛がより深くなって神様に向いた感謝が溢れるように祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

すべての人に共通の敵があります。それは霊的な存在として、サタンであり、悪魔とも呼ばれます。サタンは人間を破滅させる恐ろしい敵です。聖書は、サタンの存在に関するものだけでなく、サタンの性格と能力、活動の戦略と最後の運命についてのすべてを明らかに啓示しました。サタンの戦略には最終目的があります。人々を、自分が入る所の地獄に引き込むのが目的です。その目的達成のために、サタンが持っている方策があります。これを、私たちは正確に知らなければなりません。聖書は私たちに、サタンの攻撃目標と手段を明確に知らせています。それでは、まず、サタンの攻撃目標と手段が何かを確認して見て、神の武具について見てみましょう。

### サタンの第1の攻撃目標は、聖書の対したものです。

聖書は神の言葉であり、人間の救いに対して真理を明らかに啓示しています。キリスト教会は、聖書の上に建てられています。聖書というのは基盤が崩れると、キリスト教会は破壊されてしまいます。したがって、サタンの第1の攻撃目標は、聖書です。「聖書は神の言葉であります。」というのは、聖書自体が証明しています。テモテへの第二の手紙 3章 16節に「聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって」としました。神が人を選んで、聖霊様の主導の下に、聖書を記録するようにしました。聖書の著者は神様です。聖書は、エラーが全くありません。全知し、全能の神から与えられた言葉が、聖霊の主観下に記録されたからです。聖書の預言は歴史の中で達成されてきて継続達成されています。聖書は、様々なトピックを扱いながら、1600年の間の長い期間にわたって、約40人の記録者たちによって書かれた66冊の本になっています。それにもかかわらず、一つの統一されたテーマと目的を持っており、矛盾する部分がありません。天地創造からこの世の終末とイエスの再臨と聖徒の復活まで一目瞭然です。人間が質問する究極の重大な質問に対する答えをすべて提示しています。特に人間の罪の問題解決と救いについての明瞭な答えを与えています。これらの理由で、サタンは全力を尽くして聖書を攻撃します。これら巧妙な方法で聖書が神の言葉であるという事実を否定します。彼らは「聖書は神の言葉である。」と言わずに「聖書を通して神の言葉を聞くことができる。」と巧みに言います。結局、聖書を歴史書や文学作品として扱われます。「聖書は聖霊の感動を受けた人たちが神に受け言った神の言葉である。」という事実を否定する人は、彼がどのような身分の人でも、クリスチャンではありません。

### サタンの第2の攻撃目標は「イエス様だけがキリストです。」という信仰の事です。

## サタンの戦略を分別して十分に立ち向かいなさい

ヨハネによる福音書1章にイエスについてこのように説明しました。「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共にあった。すべてのものは、これによってできた。できたものうち、一つとしてこれによらないものはなかった」(ヨハネによる福音書 1:1~3)「言葉は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた」(ヨハネによる福音書 1:14) 神は聖父、聖子、聖霊の三位が一体でいらっしゃる。イエスは聖子で、罪人を救うためにこの世きました。イエス断定的に言われて、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」(ヨハネによる福音書 14:6)しました。使徒ペテロは聖霊の感動を受けて宣言することを「この人による以外に救はない。わたしたちを救う名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」(使徒行傳 4:12)としました。キリスト教会は、「十字架につけられて死なれ、三日目に復活されたイエス様だけがキリストです。」という信仰の上に建てられています。だからイエス様だけがキリストだという信仰がサタンの攻撃目標です。

### サタンの第3の攻撃目標は、伝導の対したものです。

福音は、簡単で明瞭です。ローマ人への手紙10章に記録されるのを「なぜなら、「主の御名を呼び求める者は、すべて救われる」とあるからである。しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることができるか。聞いたことのない者を、どうして信じることができるか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことができるか。つかわれなくては、どうして宣べ伝えることができるか。「ああ、うるわしいかな、良きおとずれを告げる者の足は」と書いてあるとおりである」(ローマ人への手紙 10:13~15)しました。復活されたイエスが天に昇る前に残された申し付けの2つがあります。福音を宣べ伝えることと聖霊のバプテスマを受けるといことです。使徒行傳 1章にこう記録しました。「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」さて、弟子たちが一緒に集まったとき、イエスに問うて言った、「主よ、イスラエルのために国を復興なさるのは、この時なのですか」。彼らに言われた、「時期や場合は、父がご自分の権威によって決めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。こう言い終ると、イエスは彼らの見ている前で天に上げられ、雲に迎えられて、その姿が見えなくなった」(使徒行傳 1:6~8) 聖霊のバプテスマを受けて権能を受け、キリストの証人になりなさいと命じています。福音を聞いて信じて罪人が義人になる変化を受けます。悪魔の子が神の子になります。地獄の民が天国の民になります。将来に彼の体が生命の復活に参加することになって、新しいエルサレムで主と永遠に一緒に住むようになります。

だから、サタンが最も憎むのは福音の伝道です。サタンは疑似非神学者と疑似非聖職者を通じて悪賢い策略をします。和合と一致のために宗教間に布教することを止めなければならないと教えています。今まで悪魔の策略3つを見てみました。これは疑似非神学者、疑似非牧師、疑似非信者を分別する試金石にもなります。まず、聖書は神の啓示とインスピレーションによって記録された神の言葉であり、信仰と行為の完全な標準です。第二に、十字架につけられ贖いの死を死なれて三日目に復活されたイエス様だけが唯一の救世主でいらっしゃる。第三に、イエス・キリストを信じないあらゆるの人に福音を宣べ伝えてください。3つの事項について、「私はそのすべてを信じています。」と答えることができなければなりません。それ以外の場合は疑似非です。

しかし、私たちが注意しなければならないことがあります。二重行動をする人を振り返り、分別することです。「私もそう思います。」と言いつつも、実際には、その言葉とは異なる行動する人です。上記の3つのことを否定する団体が計画して行う宗教行事を支持、擁護、支援、参加している人です。このような人は、巧みな疑似非です。疑似非は良い羊飼いのようにふりが、実際には、サタンに操られる下手人として信者に歪曲された信仰を植えてくれ、その魂を滅亡させます。サタンが自分の駆け引きを成し遂げるために使用する常套手段は、うそをつくことです。悪魔は偽りの父です。悪魔は大敵しなければなりません。

### その次は、私たちが神の武具を身に着けることです。

真理でベルトを帯びなさいとしました。真理である聖書のことは、神の言葉で霊の心をしっかりと、すべてのことを神の言葉に関連付けます。義の胸当てを付けとしました。イエス・キリストの贖いによるのでは徹頭徹尾の意志が必要です。平安の福音の備えられたもので靴を履けとしました。主にあって平安を享受平安の福音を伝えるために活動します。すべての上に、信仰の盾を持ちなさいとしました。神の保護と助を信じる信仰を持てば、サタンが撃つ火の矢は無用になってしまいます。救いのかぶとを身に着けてなさいとしました。「聖書を神の言葉で知って、聖書に啓示されたイエス・キリストの贖いの恵みを信じる私は救われた人である。」という考えを持って生きて行きます。聖霊の剣、すなわち、神の言葉を持つとしました。すべての祈りと願いとするのが無時で聖霊の中で祈りなさいとしました。

宗教多元主義を標榜する組織は、どのような異端よりも強力な破壊力を持つ団体です。これを容認したり、擁護したり 協力する人は、他の疑似非異端よりも邪悪です。聖書は神の啓示とインスピレーションで記録された神の言葉であることを否定し、イエス様だけがキリストであるという真理を否定し、福音伝道を罪悪視しながらも、キリスト教という名前で包装した巨大な勢力が津波のように押し寄せてきます。宗教オリンピックだから、観光収入の増大である言葉で糊塗して欺く言葉に聖徒たちが惑わされないでください。あなたは悪魔の駆け引きを確実に分別して、神の武具で武装して、十分に敵対する聖徒がなりますように願います。